

「ドイツ学生派遣プログラム参加報告書」

京都大学経済学部 4 年
山本佳世

① 今回のプログラムを通して、学生時代海外長期留学へ参加しなかったことを後悔しました。私は今まで、海外留学に興味を持つ機会がなく、そのため語学をまじめに勉強したことがありませんでした。就職活動を終え、学生生活最後の 1 年に何をすべきかを考え、語学、とりわけ英語を勉強するきっかけを作ろうと思ったのが、今回のプログラムに応募した動機です。受験英語しか取り組んだことのなかった私は、当初は挨拶、日常英語すらままならないレベルでした。しかし、このプログラムに参加するため、毎日オンラインでの英会話学習を続け、TOEFL で基準スコアを上回るように努力しました。自分なりに努力し、国内においても英語レベルを上げることには一応成功したと思います。しかし、海外留学は、英語学習以上の意味があることを今回のプログラムを通して知ることが出来ました。約 10 日間と短いプログラムではありましたが、本当にたくさんの業界の方、色々な国からの学生と交流する機会があり、国による物事の考え方の違い、意識の違いを学び、自分が常識だと思っていたことが海外では全く違うことなどを肌身で感じる事が出来ました。このような経験は、日本国内ではなかなかできないことで、自分の考えが広がり、柔軟性が出来たのが大きな収穫でした。

また、大学での学習の大切さを知りました。京都大学の学生は、入学すると勉学に打ち込む学生は多くはないというのが私の印象ですが、海外の学生は本当に真剣に勉学に取り組んでいて、とても刺激を受けました。京都大学は学ぼうという姿勢があればとても恵まれた環境であるので、しっかり活かして勉学に励もうと思いました。

② 海外での経験によって、やはり語学を勉強することは今後必須になると感じました。多くの日本企業が海外進出を行っており、海外において日本のプレゼンスを高めていくためには、英語レベルの向上は日本全体で取り組むべき課題だと思います。

また、様々な人種、宗教の問題を感じました。特に、移民政策に関しては、ヨーロッパは日本よりかなり進んでいますが、問題も多々あることを知り、日本が将来本格的に取り組んでいかなければならない問題だと思いました。

③ プログラムの内容は非常に満足しています。様々な業界の方にお会いする機会をいただき、生の声を聴くことが出来ました。特に、私が興味を持っていたエネルギー業界の方のお話からは、ドイツの脱原発、再生可能エネルギーへの取り組みの詳細を聞くことができたり、省エネルギー住宅の見学をさせていただいたり、とても充実した機会となりました。

④ 私は来年からコンサルティング企業で働き始めるのですが、日本の海外でのプレゼンスを高めていくことに貢献したいという思いが一層強くなりました。海外で働くことを視野に入れ、英語学習は今後も真剣に続けていきたいと考えています。